

意見交換の概要

- 開催日：平成28年11月21日（月）14：00～15：30
- 会場：レインボープラザ
- 参加者：96名

Q. 質問・意見

平成28年度中に自殺対策計画を策定するというので、過去10年間でどれくらいの方が自死したか教えていただきたい。

A. 市長等の回答

平成27年に北九州市での自死した方の数は186人でした。この10年間の間に180人ぐらいから250人ぐらいの方々が毎年亡くなり、約2,000人がこの10年間で自死している。

Q. 質問・意見

高齢者支援事業の現在の進捗状況がどうなっているか知りたい。
さらに、健康寿命を延ばすという事は、食生活改善推進員が推進する食生活の改善と休養・睡眠・運動、この3つが一体になって歯車が回った時に初めて健康寿命が延びるのではないかと考える。そのため、ヘルスマイトの食生活改善活動とその他の支援事業とが連携して事業を進めてほしい。

A. 市長等の回答

高齢者支援事業は様々なものがあり、年長者研修大学校等の生涯学習や、地域活動をサポートする健康づくり推進員の活動も含まれる。
現在、市内では、約700人の健康づくり推進員が活動している。
他にも、食生活改善推進員が地域活動に数多く参加している。
また、福祉的なサービスとしては、介護保険の事業計画の中で様々な介護が必要になった時に施設、在宅でのサービスを提供できるようにしている。これは、介護保険事業計画の中で目標を定めて整備を進めており、ほぼ目標数値通りに推移している。
食生活改善推進員は、認知症支援・介護予防センターにおけるカフェ・オレンジの活動にも参加しており、また、健康づくり推進員もこの活動に参加している。
今後は、食生活改善推進員、健康づくり推進員がネットワークを組んでいけるようにしていきたい。拠点として認知症支援・介護予防センターで情報を集め、地域に活動内容を発信していき、ネットワーク等の環境づくりを進めたい。
八幡東区の特徴として、健康推進員と食生活改善推進員とがどちらも約130人が所属し、各々が全市民センターに所属している。提案のように連携して様々な事業をするというのは、すごく良いことであり、既に活動事例も存在する。

Q. 質問・意見

私は、視覚障害者で一人住まいをしているが、先日、カフェ・オレンジでの認知症サポーター養成講座を受講し、他方、出前講演にも参加している。また、介護ボランティアの養成講座の受講や養護老人ホームへの見学などを行った。

視覚障害のため講座等への移動時には、案内が必要となるが、様々な人へ声かけを行う際に、案内、誘導を通じて友達となるなど一生懸命社会と触れあうことが大事と考える。

自分が良いと考えるこれらの活動については、より広めていきたい。

A. 市長等の回答

ハンディーを背負っているにもかかわらず、率先して活動へ参加し、それを多くの市民に伝えていただき、心から感謝の意を表したい。

これからも講座等の場を設け、市も様々な媒体を通じてPRに努めるが、100万の市民というのは大きな社会であり、そのような率先した活動への参加は100万の味方を得たような気持ちになる。これからも、よろしくお願ひしたい。

そして、ハンディーを背負った方にとって、例えば、防災時の避難等市が改善できるところがたくさんあると思う。今後も忌憚のない助言を賜れば幸いである。

Q. 質問・意見

先週、地域内にてひとり暮らしの高齢者の方が家で倒れ、本人が119番をして救急車が到着したが、救急隊員が急病人に対応するまでに40分もの時間を要した。

本日の講演内容は、このような事例に対して、今後の地域での連携について協議する柱となる内容であり、感謝を述べたい。

A. 市長等の回答

地域のつながりあるいは見守りについては、以前から私ども区役所の中にいのちをつなぐネットワークの担当係長を配置しており、地域の困り事についても逐一对応している。

今回のような事例については、ひとり暮らしの高齢者が増加する中で、これからもいのちをつなぐネットワーク担当係長を中心に地域の民生委員や福祉協力委員、あるいは町内会と一緒にネットワークを改めて構築し、対応していきたいと考える。

いのちをつなぐネットワーク事業については、北九州市内の80の事業所と連携しており、その中には鍵業者や新聞販売店などがある。色々な技術を持っている業者とも連携し、スピーディーに対応していきたいと考えている。

今回の事例に関して、全国で同じような問題が浮上していると思う。地域でのその試みというのは今後どうなっていくのか、非常に関心がある。

また何かの機会に、今回の地域で協議した内容を発表して、参考事例として情報共有したい。まず、その過程で市がお手伝いできることがあれば、申し付けいただきたい。

Q. 質問・意見

町内会の加入者が年々減っており、高齢者の独り暮らしの方の未加入者も見受けられる。以前のように、地域でのコミュニケーションを通じながらの見守りということが困難になっている。

このようなことから、非常時に何かあった場合、ベルを押せば非常事態を知らせるような環境整備を検討していただきたい。

A. 市長等の回答

市内には色々な校区、町内会があり、コミュニティが機能している町内会もあれば、指摘のように高齢化等でそれが難しくなっている町内会もある。そのような問題については、個々に考えていかなければならない。

現在、ハード面としては、消防局及び保健福祉局で実施している「緊急通報システム」がある。これは、独り住まいの高齢者等のお宅に緊急通報装置を設置し、その機械のボタンを押すと消防局に通報がされて、消防職員が駆けつける仕組みである。この事業は、一定の身体要件のもと、低所得の方については、自己負担なく利用が可能であり、所得が一定程度ある方については一定の自己負担が生じるが、このような仕組みを是非利用していただきたいと思っている。

ソフト面の仕組みとしては、民生委員、児童委員が仲立ちをして、その方に寄り添って支援するという仕組みがある。

Q. 質問・意見

健康づくり推進員活動での資料作成について、市側の要求レベルが高いのか、健康づくり推進員が自発的にレベルを上げているのかわからないが、作成資料の内容が難解のように感じる。

また、私は後期高齢者になり、今まで人間ドックを受けていたが、市の補助が無くなり、寂しく感じている。

A. 市長等の回答

健康づくり推進員については、本当に長い間、市と様々な事業を通して、地域の健康づくりを支えている現状があり、これからも連携しながら、事業を実施したい。資料作成については、具体的に確認を行い、対応したい。

生活習慣病の予防ということで特定健診を実施しているが、これは指摘のとおり、保険者ごとで実施している。そのため、北九州市としては国民健康保険の保険者であり、74歳までの方が対象になる。75歳以上の方については、県の広域連合が保険者であり、そちらの特定健診を受診することになる。この問題のように、75歳以上の方の健康をどのようにサポートするかということについては、私共も引き続き公衆衛生上の問題として、制度外でどういったことができるのか、引き続き考えていきたいと考える。

Q. 質問・意見

民生委員の業務を行う中での一つの事例として、独り暮らし高齢者の女性が、聴力が衰えたために、自宅でテレビを大音量で視聴しており、こちらから電話で連絡しても連絡が取れないことがある。結局、お家まで行って確認しなければならないといったことが共通の問題である。

それで一つ提案として、電話につなぐことで光と音が同時に出る装置がある。装置の価格をインターネットにて検索すると 500 円であった。後日、その方の負担により装置を購入し、取り付けると、その後は応答するようになった。一つの成功例として報告したい。

A. 市長等の回答

光と音の出る装置が、500 円ぐらいという具体的な提案をいただき、感謝したい。

今日は何人かの質問、意見の中で、「独り暮らしの高齢者が増えている」と指摘があり、その対応として地域社会はこれから何ができるか、という問題提起があった。行政としても、それは統計的に一目瞭然で、その数は全国的にも増加しており、非常に大事な福祉施策のテーマだと心得ている。今日は具体的な提案も含めて、あるいは非常に悩ましい直近の色々な課題についても報告があった。改めて、独り暮らしの高齢者の方に対してどのようにメッセージを送るか、どのように地域の方と協力して対応していくかがいかに大切な喫緊のテーマかということ、痛切に感じた。

具体的な提案について、これから引き続き勉強していきたい。